蔵の土間の観客が難然群坐の其中に放飯流啜不體載極

年月日

本務底(戸主ならされば) 本務底(其何別故は弟等) 何 何 初年何月生

大小田板は建設の殴りを終て之ま分して新内を以て所定の破壊が出る事を現一、分科人機が変生率なる場合が、分科人機が変生率なる場合が、大田大人機が変生率なる場合が、大田大人機が変生率なる場合が、大田大人機・

に於てすべむ (旅行・各分科大學研究生學生で往れ派唆を支給するときは左の定職以内)

43

研究生(る金額 歴生を推算工事三兩學年の

富塵の演劇を見動をる其折、随行一同東棧敷に陣取り

英国書名を著は北京部)相談人等側が可を崇詞を出し、大學末年の一条の書名を著は北京部の相談人等側が可を崇詞を出し、大學末期には、大學和主義の主義により、大學の主義の主義により、大學の主義の主義により、

見做さるへと必然をるに其駐観の思いの外よ駐産なら 招うるいものも劇場と以て國中一箇の肚觀と見做心又

年月日 第三個個主

帝國大學總長何美段

★交際接待の順序あるべし此時に當りては招くものも を劇場否

や

名待

まて

日本

演劇

の

一覧

で

現は

すは
自

の て別は誘引の場所もなければ手持無沙汰の食り先づ之 悦はするのとてはなく彼の國のやんおとなき方々あど

第一数数

の來臨るるに當りては魯内謁見る相踏みたる處ふて初

改良劇場の程をは如何 턍 專 新 報

商連中国より資本に差支之ある可き客なく況して其筋 其規則定数等の類も既に世に公におりたる程にして神 は當時東京改長派劇會社あるものを創立するとに決し の新劇場を建築せるる可らずとい昨年來學者は喋々せ 裁を整へて銘々に椅子腰掛を備へ附け録益の番景を活 の上げ下げを便にし観客席の間取りを改め及其席の體 西洋劇場の形に模名録臺の天井を高くして節附諸道具 今の日本の劇場の不完全なり之を改良をるには継べて 動せしめんが 為め光線の出入と自在よする等の工風甚 **し防よして世人も爲めに其心を勵かし東京の紳商連中** ぶ大切なるが故に新に改良劇場會社を創立して西洋風

さるの極あり事の質原を観察するに社會化諸事萬路底 にして殖産工業等有形質物の養建の之れに伴よと能は 本國の文明は無形精神的の部分に於て其態形特る迅速 るに至りらるの我輩も竊に不審と抱く所なり益し我日 **試け一時限りけ茶醤在資本は非すやとまでに疑けしむ** の沙汰もなく世人として彼の改良演劇會社設立の談は **為手するばかりの手触に達しさるに然るに耐來其着手** の保護さへある可しとの噂もあきば今は只だ其建築に 科規程を創定せ

の装飾として今日正に其必要を成せざるを得ざるかり ひ以よ殺風景の土地柄にして風流装飾彼の人々の眼を 田中の本據と為すを常とすれども東京と云ひ横掛と云 第一〜に其数を増し此外々は熟れる東京横濱を以て在 世界に廣せるに贈ひ西洋國人の日本に來遊するもれ次 抑も近來外交のます~〈繁多に左て日本の名の次第に きに非ず劇場改良の如死即ち其一部分にして我輩は脳 空氣中にも風液裝飾の趣と存せざる町らざるの場合を は外見もあり外開もありて事柄も因りては世間質素に 整の毎度希望する所
あれと
も
左れば
とて
存世の
交際
に 文明液の想像衛を質行せんとするかどの迂濶か死と我 とす可含今の時節に際しては越べて質素を伺んで漫に 誠に是非るなき次第にして國用多端官民共よ節儉と旨 片の想像器たるに歸するもの比々として智然るが如来 先づ到りて力強は足らず世間無数の敗段策もあばれ一 第二 分舟水平の卒業生にあらずして大學院に入らんと欲する者は第二 分舟水平の卒業生にあらずして大學院に入らんと欲する者は卒業の優勝一 外科火災不禁生にして大學院に入らんと欲する者は卒業の優勝一 惠 斯二 質 第一大學院に入る単生は其特に講究せんを欲する最終をの聞き超て之場が、大學院に入る単生は其特に講究せんを欲する最終を定めて帝國大場に 第二 帝國大學総長は大部院毎生の考別せんとする場所の主管が将大學に投資し製物の中より支持等を練賞すべき者を指定し挙生は美術等を提賞すべき者を指定し挙生は美術等に従いる気の中に対している。 分科大雄卒就生に非さる者は特に設けたる議論に依り其極力を検定す 天學に於て明究生たる主要 大师院入學規程

第五、入場市河を得たる者は確式を行び大學院毎生際に記名すべるとのるときは其交際料を決任す 第四、第三項の志願者和受職料金三十國を交給省會計局所國大學出發到 茅徳大學院へ入學実學科英事項考究の志願に付入祭御許可を養體終出 但者も芸川務行の前に於て自己の都会に依り入學館の取消を含ふて 本庭族(声击多5されば)本庭族(声击多5されば)

쾎 (以上本年七月八日官報)

稻作に答を被ふりたるもの及損殃に慈友ふるもの

本年新茶平均の直段を聞くに山城物上等品百斤三十圓 賈込むことなるが客月中府下の茶商人が取り引したる る盟茶は大概大坂茶業人の手を經て耐戸の外國商人に 〇大坂通信(七月四日堂) 製茶平均直 神戸花より輸出す

一些節の身姿をかして知己の人々と集めて二萬霧の名弘

をなし脱窓を開きたりと本年七月三日の朝日新聞に見

維新前に草履拾ひをせし時に住居したっ長家に移陣去

えたり

は云へ外國人の手前を輝りて國中の萬事萬端を飾り立 文野を判定するの標準と爲るとかあと云ふ可からず左 他日放の屋の社會の評判と爲りて玉石混淆一概に図の を朦斷するの弊を兇かれざるが故に瑣細の事福っても なく一時眼中に映じたる共現象のみを以て推して其他 合せたる人の物語りき總法で外國を遊覧する者は外心 窺ふて我れ知らず冷行背を沾しるりどて其時劇場に居 まる其有様を望見して奇異の思ひを爲し居たる様子を は立ちわがりの際頃部を打ちて左も窮屈かる様子おり たりもが機敷の天井低さが爲を隨行員中丈け高さもの へざる所をり現に数日前の事をり或る海外の貴容が新 殆んど一種の笑柄と爲らんともあれ我々の不愉快に堪 **すして其規模結構の不完全ある西洋國人壮眼に映じて** 

造電支機土体研究法 領 機木 家 和 生物理 正 工工

Securation 五五八

+++ PER MERITAN DESCRIPTION

=+ no a secon

1頭で其異相を截ふて彼の眼中に幻影を映せ出めんと

希望する所参り 日本の文化に相當する丈けの劇場を建立すると我々の の時に含りて改良劇場創立の事に志ある紳商連は中頃 的共國は文化を下もるの一権とある可死ものかれば今 に非すと鍵でも劇場の如きは外國人觀覧の衛に當り且 にして躊躇するとを爲さず速うに工事に着手まて今の する以人力の及ばざる所にして我輩の最て希望する原

> 動植地构物文珠牌 正 用 物物質與 500 化 化 學學學學學學學學

九九百三五天百九

○叙任及醉命 明治二十年七月七日 官 湬

韓周軽(出張す命ス 内務省地球局長 郷井 動物工工・大学 第一星土木屋 19号(出張す命ス 内務省土木局長 四村 拾三 知知知事間原総日小数学 クラディミル・ドラシャアテレン 級然一等羅其是日大技工 叙款四等明算是日小級單 級大勲位甄武菊花大级底 ッランボコク、アレキサンドル、ミハイロウ井チ酸下 雰西亞國皇帝陛下ノ陸軍少尉 雲西亞羅島帝院下ノ東神艦阪司令員官編軍少野 第七・研究生に

○大學院規程改廢創定 帝国大學に於ては个世左の如《大學院 新九

大松院學生は學術若(は技藝者究の爲め入學の初め二節年間分科 第十 研究生产 スキの3外は正科生と同じくとと選手でも、ままませんに乗ぎ取りる場合に扱う之を終げすべきものます。 本祭の部合に扱う之を終げまれるの情報側特に研究生の高めに足む ○學士(初呼) 帝國大學に於て以分科大學 規劃監察及本墓理書の部第十一項のカヘだの一項を追加したす

但分科大郎に於て研究生だるの間は研究科規程に依り授業割を徴收 

新山 「石川山田、西南原寺の務村をり立籍村は家屋の浸水を使ふる岩は幸新山、石川山田、西海川市にいた。 全球性家庭の流失 このの死体をして流滅場のよいを行政計算 医下手 演員 いけばの旅材は 之に空きて は背をがための流失 人口の死格をしばています。 て祝宴を開きるり

水で沿川低地の田畑は冠水ン大なも季節単ければ板塔茂らから子豊二十水で沿川低地の田畑は冠水・川の四大川第・6水上・大大を増工大地小川之に準じて出り時間が、月の公田ともの高田として、西の田田ともの高田山 を開設し毎月四、九の日と市日と末昨日開市式を執行 りしが今般北岡、兵鷹、横瀬等諸氏は義力にて生縁市場 社 同會社にては此程より株主の總會を開設して職定 荷來客共に見受る古と稲れなる有様あり○下野織物會 随分雄んなどしが今は有名無質にして街上埃揚らず出 分か下向きなり○穀市 維新前までは二七の穀市とて 死んと當初の五分一なり無配も頗る緩く阿波縮類は幾 り四升五合、夏子五升より六升位なり○織物市 右は 四升五合、白上三升五合より七八合、掛合せ三升八合よ ●野州佐野の近況 生糸市場 従来は織物市場のそを 集のて一々残殺し居急り去る二日韓山本縣知事丼る安 撲滅するを得ざればどて昨今最寄の村民は大勢群がり 色は背く形丸くして火を避け水を泳さて迎る水火もて て大豆を害すると夥しく共形の蝗に似て大され一寸程 程隔りるる足利郡道間は淡茅の中に無数の毒蟲發生し する所ありむが湯本、奥漂等の諸氏は不日本鰈に具申一 容月下旬より出荷、氷客共に返波し昨日の出荷高杯は 中三十五匁より五分迄前黄上三升五合より四升迄、中一 したり去る七日の出來底は生絲上一圈に付三十三匁、 して配可を乞ふ筈なり○皆蟲發生 佐野より凡そ一里

新文料は大學院學生及各分科大學の報告に依り許可す林安計る本は分科大學の報告に依り許可する。の3個のに之を認く個大學院學生にあらずして研究生だらんできる。 和进筑型医证据型 4+ .= + + 子十 二五 聖道里道 護療

児りが残害の間を観て各分科大理部之を命と定規の手架及用電研表の「は昨年十二月頃まではボ中及び接近の郡村を合して洋三、給曹が宗生は特別職を表する基施等では技器を送べてるものは「錫、下等光間近十銭なり〇洋 服店の増加「大援府下に」研究生は発表を買客の工機を下 中等二十四圓下等十七圓五十鐵、近江物上等百斤二十

新生を受くることを特性で誘わればいると思う。 第五 自音研究生は他の単生と「他の近常年を指令が其他を注述での野川 を自然せらた世界を認るときは会議者の課を扱うと放文な其実をの 野州 研究の対限は一般年以上とことあるべと レ目前を以て給す)以内を受け劣物の霧め各種科に就を定むる所の、 給養研究生は各様変一箇月金拾五則(一箇月未締の端数は日数に 研究生にして品行不真母禁懈怠若くは疾病事故の髯の成義の目的 研究の対限は一箇年以上二箇年以内とす但大學院學生に卯り延期一工 比内 地社 八より 清 幽人の 方幾分 化安 價にて 駆入れ 得 研究生は保証人を要せず而して管理会に管指せんと欲するものは □ね○鐵臺兵の演習 大坂銭盛にては本年九月を以て播 御立寄りありと以來男女とも洋腹を着用する者漸く増腹忌業者僅のに八十戸許りなりしが本年春聖上大坂へ 十歲、紀州物上等十六圓五十錢中等十一圓五十億下等 錢、加賀物上等廿一圓五十錢中等十九圓下等十五圓五 約五十八節館を設けて其取締法を定むることくはあり | 雇込を居れり斯る事の次第なるが故よ今度同業仲間規 るけみならず仕立上げての體裁にも關係すると勘示か 市中のみにて百十月程の同業者を増加したり去が共職 | 加心體のて同業者は何れも繁昌を極めて本年上半期間 | 十三回五十錢中等十圓五十錢下等八回五十錢、河內物 | 歸迩有名なる松不親懷氏を訪ひ嫉宿へは土地の有志者 十錢中等十八圓五十錢下等十四圓五十錢、筑後物上等 州三木地方に師膃編成の大演習を爲す箸なりしが何分 らざるよしにて中等以上の洋版店は清國人六七名宛る 九圓五十錢、土佐物上等十六圓五十錢中等十一圓五十 八圓中等二十三圓下等二十回、大和物上等二十三圍五 上等二十三四五十錢中等十八圓五十錢下等十四圓五十

て各商業を休み各戸に國旗を揚ル一同五番館に集會し 口居留地にある米線人一同は本日獨立の脱祭日なりと 徐雨となりしを以て明治二年の十月頃に陶器漆器銅器 す三河に到りて兎を聯ひて京都に廻はせしに亦も非常 六百七十二兩の餘顧を生せしかば猶進とて此機を外さ に七十五文に騰貴し夫より丹波に往るて材本と買集を び一日に全五十兩程を儲け是で資本として其翌日に近 りし際に清右衛門は戦死者の死體を取片付る事を締員 年七月十九日京都に兵火ありて洛中の騒擾一方ならご 殷を拾ふを業とし非人小家にて生立し考かるが元治元 前町に住えて毎朝早くより起るて市中に落散りたる草 話しを聞くみ此荷右街門といふり元下京の六波羅野門 の財産を一個月間に遣び果して祝宴を開れたりといる を仕込みて横濱に持行る二千二百餘雨の利潤を得て更 出入して螺蝎を商の退々に資本を積みて今は三千六百 の利益を得て千三百九十七兩餘となり其後は諸藩邸に 直ちに保津川より嵯峨に出したるよ忽ちにして資鑑し 在所々にて草屋を買集めしが一足二十五文のものが俄 衛門(六十三年)は織物商を聲むるのあるが今回二萬国 ○二萬翁の親宴 京都上京區第二組内構町の早瀬清石 の色ありと云ふ

を長男和三郎へ遣し廻る五千圓を市中遊路修繹費の内 一場の保存費の内へ納め五千國と海所費中へ獻忠五千圓 雇人七人に分ちて與へ一千圓は海命者への救助と支一 あく打過ぎしが本年に到り諸會社の株券減行し此際に 其後織物薬を始めらが損益平均して別に著しる儲ける 門よ二萬翁の號を附しるる由储で剛人は去る三十日に へ寄削する事に決したるを谷銀巨霸が之を開死清右衛 千関を大谷派本願寺再建費に寄附末二千圓を盤山招魂 程よく賈買して現在金二萬間となりしかば丙二千圓を に生糸商を始え明治十年には一萬六千圓の身代とあり

一話し大ス鶴岡士崎の入望を博したり叉た西村山最上の | を招集して縣治の方針學校の組織士族授産化方法等を | 田川飽海の三郡を巡回を鶴岡ふて護藩主根平子に面し 一二郡をも巡避し無會議員家商家是等にも親心く縣政上 〇山形通信(七月三日祭) 柴原山形縣知事は過日來東西 露足利雨都長、小墨及商課長の出張檢戒せり

312

| 都合み因りては少佐以上の將校官宅も建築もる豫定を は同校建物弁に地所等と五萬国にて買上ゆしが右への | 岩那吉田村に移轉するあとになりむより過般大坂貧姦 | 足らざるが故に之を見合はせ其筋へ寒諱して更に混成 き入れたると以て乘客一同は無難なりしとだ〇府下川 れを見認め直ちに衆密と本船に移支該船は廣嶋後に曳 宛りもよと商網會社の雅鶴丸が馬網より歸城の途次之 方かく該船長以下船員非常の周旋を呑むつくありし際 は乍ち湯氣を以て充滿しるり乘客一同別章獲很官はん スチームパイプ假よ破裂して火夫二名員館し船中一面 に野港し同日午後回港を投錨して宮嶋神合に掛る折柄 族甌演習を行ふるとに取極めたり〇第三高等中學校の **往復する汽船電信丸は去る一日川日を發し同二日殿嶋** りと云ム○汽船の破損 大坂府下川口より九州地方に 跡地 大坂東區大手前なる第三高等中華核は京都府黌 師園演習は多分入費を要して迚も定額の演習費よては ま殆んど坐縁を絶つの有機なれば定めて内國川地徴は然には着手せざる由然るふ觜年は製絲器械各部に流行祭には着手せざる由然るふ觜年は製絲器械各部に流行祭になるとなるといるという。 は去月廿九日其筋より發刊は緩を閉屈られたれて器械 郡楯岡へ赴きたるが順次鶴岡酒田を纏て秋田る赴く領 會と関さしが佛教改革には三個の實行す可らざる原因 | り○北島道龍師の一昨一日迄當地に滯在し三回程法話 | 出發して上京せり佐藤里治氏も南三日の後上京の等な | 其様殿を通知し上京委員塩野師次郎氏は今三日山形と 一約れ各郡への配魯額も兩三日前悉曾調査務の上夫々へ | 定なりと聞けて○山形義會によ此度發兌する山形新報 由又今よりと歸依者の補助を得て事務所を東京に新設 振起の方便を取るとういへる趣意の演説をも爲去さる の利害を開示せまと云ム〇山形縣下私立螺道に株券限 不足ならんとの想像る山でしとか米澤地方に於ては未 氏は此程上京またり〇縣下の蠶児は各郡共に昨年より する都合尤も右川事を兼ね而義會の商議員戸符権之助 文字等未だ全備せざる所あずどて來十五日頃より發兌 あるとを悟りたれば改革云々は斷然思ひ止まりて八宗 ご今年の製絲にも着手せざるに蓄絲の相場少々宛殿費 し法界獨斷をは著述する積りありと指同師は蜗下北村